

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年2月14日

【四半期会計期間】 第54期第3四半期(自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)

【会社名】 平安レイサーサービス株式会社

【英訳名】 HEIAN CEREMONY SERVICE CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 相馬 秀行

【本店の所在の場所】 神奈川県平塚市桜ヶ丘1番35号

【電話番号】 0463 - 34 - 2771 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務部長 土屋 浩彦

【最寄りの連絡場所】 神奈川県平塚市桜ヶ丘1番35号

【電話番号】 0463 - 34 - 2771 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務部長 土屋 浩彦

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第53期 第3四半期 連結累計期間	第54期 第3四半期 連結累計期間	第53期
会計期間	自 2021年4月1日 至 2021年12月31日	自 2022年4月1日 至 2022年12月31日	自 2021年4月1日 至 2022年3月31日
売上高 (千円)	6,530,499	6,984,420	8,972,318
経常利益 (千円)	896,159	1,053,262	1,366,312
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	600,924	684,344	931,726
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	601,341	685,195	932,799
純資産額 (千円)	19,275,663	19,910,187	19,607,122
総資産額 (千円)	32,958,944	33,269,632	33,348,368
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	48.93	56.02	75.95
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	58.5	59.8	58.8

回次	第53期 第3四半期 連結会計期間	第54期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2021年10月1日 至 2021年12月31日	自 2022年10月1日 至 2022年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	19.21	20.41

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間における日本経済の概況は、先行きについては、ウィズコロナの下で各種政策の効果もあり景気が持ち直していくことが期待されております。しかしながら、世界的な金融引き締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっております。物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要があります。

このような環境下におきまして、当社グループは周辺売上増強、新商品・新サービスによる収益源の確保に努めるとともに、コスト改善による利益率維持向上に努めてまいりました。

セグメントごとの業績は以下のとおりであります。

#### 冠婚事業

当事業では、コロナ禍により披露宴を伴う婚礼での自粛傾向が続いておりましたが、持ち直しの動きがあります。その中で、引き続き成人式や七五三などの各種衣裳レンタルや写真撮影といった商品の販売強化を行ってまいりました。また、来館が難しい状況下においても当社施設の特徴や各種オリジナル商品に触れる機会を作るべく、来館しながら商品や施設を案内する「オンライン相談」を継続して実施、衣裳や写真を中心とした小規模ウェディング専用の商品見直しを行ってまいりましたが、新たにコロナ禍にも適応した小中規模ウェディング向けの新スタイルコーディネートを誕生させ、SNSやWeb上での露出を強化し新規顧客誘引に努めてまいりました。

各種対策の効果もあり、披露宴を伴う婚礼施行組数は前年同期に比べ増加となり、売上高は193百万円（前年同期比7.3%増加）、営業利益は17百万円（前年同期比69.4%増加）となりました。

#### 葬祭事業

当事業では、中小規模の葬儀にも対応可能なフロア貸切型葬祭施設として2022年10月に「湘和会堂辻堂」、建物貸切型の小規模葬祭施設として2022年12月には「湘和会館広野台」を開業し、前連結会計年度に開業した「湘和会堂片瀬鵜沼」（建替）「湘和会館南湖」も通年稼働となり、順調に施行件数を伸ばしました。

また、ご家族のご安置ニーズに対応するべく故人にゆっくりと寄り添える貸切の個室型安置室「貴殯室」の新設を2022年12月「湘和会館愛甲石田」において実施するとともに、既存大型施設においても家族中心に送るニーズに対応するべく、2022年12月「カルチャーBONDS藤沢」にリビング型葬儀ルームを新設いたしました。

そのような中で、当社においては故人を生花で囲んで送る「花園」や思い出の品々で人柄を表現する「追悼壇」、オブジェや装飾と生花を融合させた「追悼生花祭壇」、重低音から超高音まで原音を忠実に再現する「オリジナル大型スピーカー」により故人を偲ぶ音楽葬の提案、その他社内製作によるオリジナル商品を通じてご家族の方々の想いを形にする提案を行ってまいりました。

また、引き続き感染症拡大の予防対策を徹底し、「貴殯室」をはじめとした不特定多数の人たちと交わらない貸切型施設の優位性を活かし、顧客満足度向上に努めてまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間において、コロナ禍での通夜施行及び会食利用自粛の影響もあり葬祭一件単価は減少いたしました。当社主要エリアにおける死亡人口増減率は前年同期に比べ上昇した事もあり葬儀施行件数は増加し、売上高は5,965百万円（前年同期比8.3%増加）、営業利益は1,521百万円（前年同期比9.5%増加）となりました。

#### 互助会事業

当事業では、互助会利用時の葬祭一件単価は減少となりましたが、互助会利用件数は増加したことにより、売上高は138百万円（前年同期比1.2%増加）、営業利益は68百万円（前年同期比9.4%増加）となりました。

#### 介護事業

当事業では、訪問入浴・グループホーム・高齢者向け賃貸住宅の稼働率が改善した一方で、コロナ禍の影響による

デイサービス等の利用自粛もあり、売上高は816百万円（前年同期比0.9%減少）、営業利益は29百万円（前年同期比35.3%増加）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は6,984百万円（前年同期比7.0%増加）、営業利益は947百万円（前年同期比20.2%増加）、経常利益は1,053百万円（前年同期比17.5%増加）、親会社株主に帰属する四半期純利益は684百万円（前年同期比13.9%増加）となりました。

なお、各事業の売上高、営業損益はセグメント間の取引による金額を含んでおります。

当第3四半期連結会計期間末の連結財政状態は、総資産は前連結会計年度末に比較して78百万円の減少となりました。流動資産では、現金及び預金が673百万円減少しました。固定資産は、主に連結子会社である山大商事株式会社の新社屋建設及び葬祭新店舗の開設により、有形固定資産が513百万円増加しました。

負債合計は、前連結会計年度末に比較して381百万円の減少となりました。流動負債は、主に未払法人税等の減少により160百万円減少しました。固定負債では、前払式特定取引前受金が250百万円減少しました。

純資産は、前連結会計年度末と比較して303百万円の増加となりました。

## （2）研究開発活動

該当事項はありません。

## 3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	52,400,000
計	52,400,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2023年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,306,795	12,306,795	東京証券取引所 スタンダード市場	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式単元株式数は100株であります。
計	12,306,795	12,306,795		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2022年12月31日	-	12,306,795	-	785,518	-	2,838,393

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (6) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2022年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 79,100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 12,223,700	122,237	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 3,995		同上
発行済株式総数	12,306,795		
総株主の議決権		122,237	

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株含まれております。  
また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数10個が含まれております。
2. 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2022年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

## 【自己株式等】

2022年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
平安レイサーサービス株式会社	神奈川県平塚市桜ヶ丘 1番35号	79,100		79,100	0.64
計		79,100		79,100	0.64

- (注) 当該株式は、上記「発行済株式」の「完全議決権株式(自己株式等)」の欄に含めております。  
当第3四半期会計期間末日現在の「自己株式等」については、直前の基準日(2022年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。当第3四半期会計期間末日時点(2022年12月31日)の自己株式数は139,100株となります。

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2022年10月1日から2022年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	8,817,818	8,143,968
売掛金及び契約資産	237,641	225,013
商品及び製品	44,233	47,097
原材料及び貯蔵品	109,716	122,572
その他	123,843	219,809
貸倒引当金	3,160	3,100
<b>流動資産合計</b>	<b>9,330,094</b>	<b>8,755,362</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物（純額）	5,263,784	6,333,254
機械装置及び運搬具（純額）	89,129	215,283
工具、器具及び備品（純額）	124,465	147,286
土地	9,069,048	9,069,048
建設仮勘定	761,770	56,620
<b>有形固定資産合計</b>	<b>15,308,197</b>	<b>15,821,494</b>
無形固定資産	42,448	37,836
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	117,139	118,364
長期貸付金	10,000	10,000
繰延税金資産	389,755	385,092
供託金	6,326,000	6,326,000
その他	1,824,733	1,815,482
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>8,667,628</b>	<b>8,654,939</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>24,018,274</b>	<b>24,514,270</b>
<b>資産合計</b>	<b>33,348,368</b>	<b>33,269,632</b>



(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	192,216	196,613
未払法人税等	270,429	114,149
掛金解約手数料戻し損失引当金	1,559	1,254
その他	709,179	700,924
流動負債合計	1,173,385	1,012,942
固定負債		
繰延税金負債	5,525	9,147
役員退職慰労引当金	83,912	83,912
退職給付に係る負債	166,736	179,689
資産除去債務	146,617	157,267
前払式特定取引前受金	12,127,850	11,877,208
その他	37,218	39,275
固定負債合計	12,567,861	12,346,502
負債合計	13,741,246	13,359,445
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	785,518	785,518
資本剰余金	2,838,393	2,838,393
利益剰余金	16,052,474	16,399,569
自己株式	70,903	115,783
株主資本合計	19,605,482	19,907,696
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,640	2,490
その他の包括利益累計額合計	1,640	2,490
純資産合計	19,607,122	19,910,187
負債純資産合計	33,348,368	33,269,632

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	6,530,499	6,984,420
売上原価	4,674,207	4,961,065
売上総利益	1,856,292	2,023,355
販売費及び一般管理費	1,067,644	1,075,507
営業利益	788,647	947,847
営業外収益		
受取利息	4,038	615
受取配当金	769	831
掛金解約手数料	40,948	19,504
受取家賃	35,505	36,468
その他	42,518	59,578
営業外収益合計	123,779	116,998
営業外費用		
供託委託手数料	224	226
掛金解約手数料戻し損失引当金繰入額	1,582	1,213
保険解約損	1,255	529
減価償却費	8,786	7,420
その他	4,418	2,193
営業外費用合計	16,268	11,583
経常利益	896,159	1,053,262
特別損失		
固定資産除却損	-	24,799
特別損失合計	-	24,799
税金等調整前四半期純利益	896,159	1,028,462
法人税、住民税及び事業税	259,623	336,207
法人税等調整額	35,610	7,910
法人税等合計	295,234	344,117
四半期純利益	600,924	684,344
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	600,924	684,344

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
四半期純利益	600,924	684,344
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	416	850
その他の包括利益合計	416	850
四半期包括利益	601,341	685,195
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	601,341	685,195
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(会計方針の変更)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27 - 2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
減価償却費	378,504千円	420,595千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月25日 定時株主総会	普通株式	172,295	14	2021年3月31日	2021年6月28日	利益剰余金
2021年11月8日 取締役会	普通株式	159,988	13	2021年9月30日	2021年12月6日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、2021年6月7日開催の取締役会決議に基づき、自己株式2,360,205株の消却を実施いたしました。また、2021年9月30日開催の取締役会決議に基づき60,000株及び2021年10月7日開催の取締役会決議に基づき19,100株の自己株式の取得を実施いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間において利益剰余金が1,383百万円減少及び自己株式が1,312百万円減少し、当第3四半期連結会計期間末において利益剰余金が15,721百万円、自己株式が70百万円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月26日 定時株主総会	普通株式	171,187	14	2022年3月31日	2022年6月28日	利益剰余金
2022年11月7日 取締役会	普通株式	158,960	13	2022年9月30日	2022年12月6日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	冠婚事業	葬祭事業	互助会事業	介護事業	計		
売上高							
顧客との契約から生じる 収益	179,978	5,505,582	42	824,802	6,510,405	20,093	6,530,499
その他の収益							
外部顧客への売上高	179,978	5,505,582	42	824,802	6,510,405	20,093	6,530,499
セグメント間の内部売上高 又は振替高			136,634		136,634		136,634
計	179,978	5,505,582	136,676	824,802	6,647,040	20,093	6,667,133
セグメント利益	10,061	1,389,331	62,220	22,061	1,483,675	2,988	1,486,663

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な  
 内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,483,675
「その他」の区分の利益	2,988
全社費用(注)	698,015
四半期連結損益計算書の営業利益	788,647

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	冠婚事業	葬祭事業	互助会事業	介護事業	計		
売上高							
顧客との契約から生じる 収益	193,091	5,965,057	19	816,991	6,975,159	9,261	6,984,420
その他の収益							
外部顧客への売上高	193,091	5,965,057	19	816,991	6,975,159	9,261	6,984,420
セグメント間の内部売上高 又は振替高			138,238		138,238		138,238
計	193,091	5,965,057	138,257	816,991	7,113,398	9,261	7,122,659
セグメント利益又は 損失( )	17,048	1,521,758	68,097	29,838	1,636,743	358	1,636,384

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な  
 内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,636,743
「その他」の区分の損失( )	358
全社費用(注)	688,537
四半期連結損益計算書の営業利益	947,847

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント					その他	合計
	冠婚	葬祭	互助会	介護	計		
一時点で移転される財及びサービス	179,978	-	42	824,802	1,004,823	20,093	1,024,916
一定の期間にわたり移転される財及びサービス	-	5,505,582	-	-	5,505,582	-	5,505,582
顧客との契約から生じる収益	179,978	5,505,582	42	824,802	6,510,405	20,093	6,530,499
その他の収益	-	-	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	179,978	5,505,582	42	824,802	6,510,405	20,093	6,530,499

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

当第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント					その他	合計
	冠婚	葬祭	互助会	介護	計		
一時点で移転される財及びサービス	193,091	-	19	816,991	1,010,102	9,261	1,019,363
一定の期間にわたり移転される財及びサービス	-	5,965,057	-	-	5,965,057	-	5,965,057
顧客との契約から生じる収益	193,091	5,965,057	19	816,991	6,975,159	9,261	6,984,420
その他の収益	-	-	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	193,091	5,965,057	19	816,991	6,975,159	9,261	6,984,420

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	48円93銭	56円02銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	600,924	684,344
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	600,924	684,344
普通株式の期中平均株式数(株)	12,280,819	12,216,350

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【その他】

第54期(2022年4月1日から2023年3月31日まで)中間配当について、2022年11月7日開催の取締役会において、2022年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	158,960 千円
1株当たりの金額	13 円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2022年12月6日



## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年2月10日

平安レイサービス株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ  
横浜事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 佐野 明 宏

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山崎 光 隆

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている平安レイサービス株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2022年10月1日から2022年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、平安レイサービス株式会社及び連結子会社の2022年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1．上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2．XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。